

令和6年度 大阪府立光陽支援学校 第3回学校運営協議会議事録

校名	大阪府立光陽支援学校
校長名	天野 ちさと

開催日時	令和7年2月12日(水) 10:00~12:00
開催場所	本館1階 図書室
出席者(委員)	小田 浩伸(会長) 平賀 健太郎(副会長) 北埜 恵一(委員) 渡瀬 博子(委員)
出席者(学校)	天野 ちさと(校長) 道前 光司(事務長) 中村 素子(教頭) 藤原 博之(教頭) 竹内 成江(首席) 藤原 克行(首席) 赤星 哲也(首席) 菊池 亮輔(首席) 佐藤 薫(指導教諭・病弱部主事) 網中 有里(指導栄養教諭) 澤 綾子(指導養護教諭) 佐々木 敦子(中学部主事) 田中 美津子(高等部主事)
傍聴者	なし
協議資料	下記議題関係資料
備考	

議題等(次第順)
<p>(1) 校長挨拶</p> <p>(2) 「第2回 授業アンケート」について</p> <p>(3) 「学校教育自己診断」結果と分析状況 について</p> <p>(4) 「令和6年度 学校経営計画と学校評価」の達成状況 について</p> <p>(5) 「令和7年度 学校経営計画と学校評価」案 について</p> <p>(6) 意見交換</p> <p>(7) 教頭挨拶</p>
協議内容・承認事項等(校長より内容説明)
<p>(1) 校長挨拶</p> <p>・3学期に入り、本校でもインフルエンザが流行り心配したが、すぐに落ち着き安心した。2/2には作品展及び授業参観を実施した。授業参観では参加型の内容などもあり、和やかに参観いただけた。作品展は今年度より全学部体育館に一斉展示となったが、保護者の方からは、小学部から高等部までの成長過程が見て取れてうれしいなど感想をいただいた。</p> <p>本日は、それぞれの立場から忌憚なきご意見をいただき、今後の本校の指針として取り組んでいきたい。</p> <p>(2) 「第2回 授業アンケート」について</p> <p>・第2回目分を追加して、まとめている。全体を通して、肯定的評価率9割以上の回答をいただいた。高等部のみ第2回目は第1回目に比べると「そう思う」と「だいたいそう思う」の数が反転しているが、集計数も減少している。病弱部はアンケートの取り方を紙ベースに変えたことが要因なのか、回答数が増加した。アンケートの取り方について、今後検討が必要である。</p>

(3)「学校教育自己診断」結果と分析状況 について

・分析状況について、資料に沿って説明。「仕事の効率化・スムーズな引継ぎ」「働き方改革」に関する項目と「安全な環境づくり」に関する項目については、今年度の様々な取り組みの結果、ともに肯定的な評価が増加しているが、今後も継続して取り組む必要がある。

(4)「令和6年度 学校経営計画と学校評価」の達成状況 について

・資料に沿って説明。前回の進捗状況報告より大きく変わったものはないが、GOGO フェスティバルについて追記している。

・学校経営計画で目標としてあげたことを先生方一人一人が意識して取り組んだことが、保護者のご協力もあり、達成できたのだと感じている。学校運営協議会でご指摘いただいた、本校のよさや強みを大切に、課題をふまえ次年度の学校経営計画に生かしていきたい。

(5)「令和7年度 学校経営計画と学校評価」案 について

・中期的目標について昨年度から大きく項目は変えていないが、説明的な内容について省いたため、スリムになっている。

・1-(2)ヒヤリハットについて具体的な目標件数をあげているが、件数の問題ではなく、先生方自身の評価する視点が大切だと思っている。

・1-(3)危機管理体制の強化については昨年度よりも評価指数に具体的内容をしっかり書き込んでいる。引継ぎ訓練時の保護者の参加は課題として引き続き取り組んでいきたい。防災については府立学校の指示事項にも項目として記載されており、校内体制の中でしっかり取り組んでいく。

・2の授業実践力の向上については学校として一番大切にしていきたいところだとしてご指摘もいただいている通りである。2-(1)本校で実践してきた「個別の教育支援計画」の良さを生かして、新校務支援システム「賢者」への移行について、他の支援学校とも情報共有しながらやっていきたい。

・2-(2)病弱教育においては教科教育について地域から学ぶところがあるのではないかという思いで、原籍校等地域の学校の授業見学の実施について書き込んでいる。

・3-(1)国立特別支援教育総合研究所の研究協力校として、指導助言をうけながら実践研究をすすめる。

・3-(3)教職員働き方改革推進について、一定改革はすすんだが、さらにすすめていきたい。大事なことを大事にしていくために、減らしていくものを減らしていくという考えでやらなければならない。

・4-(1)交流前の「出前授業」をさらに大事にし、相互理解の視点で取り組みをすすめる。

・4-(2)GOGO フェスティバルについては、継続課題を整理してすすめていく。

・4-(3)保護者、特に病弱部門の保護者に対する発信については、方法を工夫しながら積極的に続けていく。

(6)意見交換

・委員からの意見の概要に記載

・学校より3件の取り組みについて紹介

○「光陽ふわりほっと」について

・昨年1月より運用スタートしており、毎週木曜日に共有している。目でみえる成果があるわけではないが、教員間でも話題になるなどそれぞれの教員が大切にしている状況があり、意義のある取り組みだと考えている。

○「光陽いいとこあつめ」について

・各学部から集まった授業実践(小・中・高・病)について学部会で共有している。今回はキャリア教育を意識した取り組みについて紹介。

○「GOGO フェスティバル」について

・今年度は12月26日に実施。動画で当日の様子を紹介。

(7) 教頭挨拶

委員からの意見の概要

・授業アンケートの回答数を鑑みると、実施の仕方については、今後検討していただきたいと思う。PTAのやりとりでもSNSを利用すると、うまく意見を回収できない場合がある。Webでのアンケートについては、やらなくてもよいと考える保護者もいるのではないだろうか。

・授業アンケートの高い肯定率に感心しているが、回答数をあげるための取り組みをすすめてほしい。

・授業アンケートについては、全体的に肯定的意見が多く(否定的意見がほぼなく)、日々の実践が高いレベルで達成できていたり、その内容が保護者に伝わっていたりすることが、その結果に結びついていると考える。一方で未提出者が4~5割もいることについては改善にむけて取り組める点ではないだろうか。回収できなかった家庭の思いもなんらかの形で回収できるようにすれば、さらにそこに改善の手立てが潜んでいるように思う。

・防犯・防災意識の向上、授業改善の進展、ICTの活用、業務効率化の推進など、学校全体で取り組まれている施策が具体的な数値で表れている点は大変評価する。学校全体の共通する課題や強みが明確になり、今後の学校運営方針において一貫性を持った評価や改善策が可能になることが期待される。

・病弱部門では、入退院に伴う児童生徒の入れ替わりが頻繁であり、回答数の少なさや「わからない」という回答の多さが課題としてあげられる。アンケートの回答率向上や「わからない」という回答の軽減に向けた工夫が引き続き必要である。

・普段学校にくることが少ない保護者にとっては、質問項目について「わからない」となるのは当然で、「質問項目について連絡帳や子どもの様子から汲み取ってほしい」という学校側の意図が伝わっていないのではないかと思う。

・スリム化についてどのように考えるかが大切であり、子供の教育を充実させることを目的に取り組んでいかなければならないのではと思う。

・ヒヤリハットの取り組みについては風土として根付いてほしい。全体の雰囲気や意識を高く掲げてやっていただきたいと思う。

・専門的な知識が必要になってくる教育の現場で、一人一人に違うアプローチをすることも多くあると思う。先生方には関わっている子供の実践を通して、そこから吸収して学んでもらえればと思う。

・教育支援計画については作成が目的ではない。作り上げる中で、思いを共有したり、保護者と学校で役割分担をしたりできるような様式づくりにつとめてほしい。